

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成28年10月 3日 更新

事務事業名		配水施設(管路)維持管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	2 緑豊かな環境と共生するまちづくり				所属部	水道局
	施策	9 住環境の充実				所属課	上下水道課
	施策の柱	24 水の安定供給				所属班	管理工務班
予算科目	会計企業	款	項	目	事業連番	根拠法令	地方公営企業法、水道法、合志市水道事業給水条例
							成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果
終了、開始年度	☐ 27年度で終了 ☐ 27年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	水道事業及び簡易水道事業において整備された配水施設(配水管等)の機能を保持し、安定的な配水を行なうための事業である。昭和37年度から着手した水道(簡易水道)事業により、清浄かつ豊富、低廉な水の供給を図り、公衆衛生の向上と生活環境の改善をめざし計画的に整備された配水施設(配水管等)を適切に維持管理するために事業を開始した。水道利用者数(給水件数)は、平成15年度末(17,285件)から平成20年度末(19,132件)までの5年間で1,847件増加し、その後も増加傾向が続ぎ、平成27年度末(21,857件)まで7年間で2,725件増加しており、それに伴う給水装置工事申請(メーター支給等)及び工事完了(検査)事務も増加している。また、配水施設(配水管等)の老朽化等により漏水が頻発しており、破損等の発生に応じて補修する応急修繕はもとより、積極的に漏水箇所を探索し改善に結び付ける漏水調査等も行なう事業である。
【業務の流れ】	①水道事業給水条例第4条(給水装置の新設等の申込み)の規定による給水装置工事申請受付(内容審査、メーター貸与等)及び完了後の工事台帳による検査事務を行なう。②配水施設(配水管等)について、漏水等の発生により随時、配水管及び給水引込管等の漏水等補修対応事務を行なう。漏水及び破損箇所を復旧するため、現地確認、修繕等に係る工事等の発注その他、必要な契約事務、作業立会、結果報告、改善事務を実施する。[ただし、使用者(所有者)の責任により維持管理すべき部分を除く。]③漏水の復旧対策について、破損等の発生(目に見える漏水)に応じた応急修繕はもとより、積極的に漏水箇所を探索し改善に結び付ける漏水調査業務を行なう。(年1回、地域を定めて専門業者に委託する。契約事務、作業立会、結果報告、改善事務等)④緊急の漏水補修対応に備え、資機材を備蓄し修繕に活用するため、資機材の調達(単価契約)事務及び在庫管理事務を行なう。
【主な予算費目】	営業費用 配水及び給水費 (委託料、修繕費、材料費)
【意見や要望】	市監査委員から、限られた水資源を有効に活用し、有収率を上げるため、漏水態様を分析し、さらに効率的な対応に向けて努力するよう意見があった。また、単年で地域を分割して行なっている漏水調査業務について、低迷する有収率の原因を分析するため、市全域を調査してはどうかという意見があった。→平成25年度に実施。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行なった主な活動)(DO) (H27年度) ①578件の給水装置工事申請を受け、完了分の検査事務を実施した。②345件の配水施設(配水管等)の漏水等対応事務を行なった。③漏水調査は、全給水地域を対象に、延長50km、戸別調査3,300戸を実施した。④資機材の備蓄管理のため、単価契約を行い漏水修繕に活用した。		28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) ①給水装置工事申請受付、検査事務 ②配水施設(配水管等)の漏水対応事務 ③漏水調査事務 ④資機材備蓄管理事務	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 給水装置工事申請件数	件		
→ イ 配水施設(配水管等)の漏水対応件数	件		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 配水施設(配水管等)		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
		→ ア 配水施設(配水管等)の延長	km
		→ イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 機能が保持される。		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
		→ ア 漏水補修等により断水した回数	回
		→ イ	
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠 漏水補修等により断水した回数をみることで、施設の機能安定した配水ができているかどうかを判断できると考えた。			総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	25年度 実績(決算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	29年度 予定	30年度 見込	31年度 見込	
① 活動指標	ア 件	件	675	599	500	578	500	500	500	0	
	イ 件	件	332	301	350	345	350	350	350	0	
② 対象指標	ア km	km	307	315	320	308	320	330	330	0	
	イ										
③ 成果指標	ア 回	回	22	28	50	25	50	50	50	0	
	イ										
投資 入費 量	事業 費内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	31,459		35,640	32,356	35,640	35,640		
		繰入金	千円								
		一般財源	千円								
	(A) 事業費計	(A) 事業費計	千円	31,459	0	35,640	32,356	35,640	35,640	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	10	7	7	8	7	7	0	0
		延べ業務時間	時間	2,170	1,740	1,000	2,610	1,000	1,000	0	0
	(B) 人件費計		千円	8,645	6,932	3,984	9,690	3,984	3,984	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	40,104	6,932	39,624	42,046	39,624	39,624	0	0	

事務事業名	配水施設(管路)維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	----------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】 (H27年度)漏水補修等により断水した回数は、目標である50回を下回り、25回に留めることができた。配管技術や補修資機材の進歩によるほか、配水本管等の布設替えが進んできたことも向上の要因と考えられる。
	②28年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 配水本管の布設替えは例年どおり計画されており、突発的な事情(大規模災害:地震等)の発生がない限り目標を達成する見込みはある。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 漏水補修等により断水した回数は、0に近づけることが目標であり、向上の余地はある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業は他になく、統廃合・連携の可能性はない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最小限の予算を確保して補修等の維持管理を行っており、緊急に対応する必要性からも事業費の削減余地はない。ただし、補修等の発生頻度・規模によっては、結果として事業費が安価になる可能性はある。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業を兼務(上下水道)することにより、必要最小で維持管理を行っており、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 すべて水道料金で維持管理しており、全使用者に受益機会があるため、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 第三者に業務を委託することを検討する余地はあるが、使用者にとって真に信頼できる水道事業であり続ける必要があり、部分的な業務委託を含め、現時点で移行することはできない。

3 評価結果の総括 (CHECK)

(H27年度)漏水補修等により断水した回数は、目標を達成し、25回に留めることができた。配管技術や補修資機材の進歩によるほか、配水本管等の布設替えが進んできたことが向上の要因と考えられる。しかし、漏水補修等により断水した回数は、0に近づけることが目標であり、さらに向上に努力する。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"> </td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								